

地域包括ケア推進事業 「赤十字地域交流フェスタ」

赤十字サマーフェスタ in 宮古 開催！

笑顔満開 広がれ 地域の輪

地域のだれもが参加し交流できるよう、7月6日（土）に宮古市八木沢第2アパート駐車場で赤十字サマーフェスタを開催しました。

イベント中は赤十字救急法や救護服の試着、ハートラちゃんぬりえ、豚汁の炊き出しや災害食作りなどを体験。来場された方同士、笑顔で交流している姿が見られました。イベント準備や後片付けを手伝ってくださる地域住民の方もいて、地域とのつながりを感じることができました。

赤十字オータムフェスタ in 陸前高田 10月12日（土）に開催

陸前高田市の市営中田団地駐車場にて、赤十字オータムフェスタを開催します。どの世代でも楽しめるよう、様々なブースを用意しております。

イベント当日は、地元の赤十字奉仕団による炊き出しも行います。

岩手の JRC が 100 周年 !! 気候変動について考える

青少年赤十字 (JRC) は誰もが思っている「困っている人や苦しんでいる人を見たら何かしてあげたい」という、赤十字の人道の精神を大切に、人々の幸せや世界の平和のために尽くすことができる人間を育てることを目的として、さまざまな活動を学校教育と共に展開しています。

岩手県では大正13年に初めて結成され、今年で100年目を迎えたことから、現在、社会問題となっている気候変動問題について、「これまでの100年とこれからの100年」を改めて考える機会を設けています。



岩手の青少年赤十字加盟校（園）は、幼稚園・保育園・こども園 58 園、小学校 96 校、中学校 45 校、高校 18 校、特別支援学校 3 校で計 220 校（園）、約 33,500 人の学生が活動しています。（令和6年3月末時点）

日赤岩手県支部では加盟施設を募集中です。想いを同じくする県内の学生と交流を深めませんか？

費用負担等はありませんので、お気軽にお問い合わせください。

令和5年度決算報告

6月10日、令和6年度第1回評議員会が開催され、令和5年度事業報告と歳入歳出決算が全て承認されました。皆様からのご支援を赤十字の活動に有効に活用させていただきました。

歳入

歳入合計額 **244,989** 千円

- 次年度繰越 (10.56%) **25,871** 千円
- 岩手県赤十字の業務運営 (17.86%) **43,750** 千円
- 国際活動、赤十字の全国事業 (13.91%) **34,071** 千円
- 赤十字の思想の普及と活動資金の増強 (20.68%) **50,666** 千円
- 一般活動資金 (81.65%) **200,039** 千円
- 法人活動資金 (8.87%) **21,734** 千円
- その他 (9.48%) (講習収入、前年度繰越等) **23,216** 千円

歳出

歳出合計額 **244,989** 千円

- 災害救護活動 (15.16%) **37,147** 千円
- ボランティアの活動 (8.64%) **21,165** 千円
- 市町村の赤十字活動、奉仕団の活動 (13.19%) **32,319** 千円
- ※病院、血液センター、社会福祉施設は施設毎の特別会計になっており、この決算には含まれていません。

整備の一例をご紹介します

赤十字救護車（一関市配備）

救護班救護衣（ベスト）

社会貢献セミナーのご案内

令和6年4月1日、相続登記の義務化がスタートしました。この機会に相続登記の義務化を含め、「相続」、「遺言」について考えるきっかけにしてみませんか？

今年度第1回のセミナーを10月27日（日）12時から二戸パークホテル（二戸市福岡）で開催します。（希望者の個別相談有り）

昼食、受講料、個別相談全てが無料のセミナーです。お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。**先着30名ですでお申込みはお早め!!**

県北初開催

高額寄付者のご紹介

令和6年2月～7月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。（順不同・敬称略）

個人

- ・中野 十郎（野田村） ・遠藤 武（八幡平市） ・田村 繁則（盛岡市） ・菅野 伸一（遠野市）
- ・鈴木 敦（平泉町） ・山口 昌六（遠野市） ・井戸淵 春男（軽米町）

法人

- ・(有)アクティブ（奥州市） ・岩手県医師信用組合（盛岡市） ・(有)佐々長水道（八幡平市）
- ・(株)高宮商店（盛岡市） ・(株)一騎工業（奥州市）

寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

令和6年2月～7月に5社6台設置していただきました。（敬称略）

- ・(株)佐賀組（大船渡市） ・宮光海運(株)（宮古市） ・(株)小山田組（宮古市）
- ・(株)長澤工務店（花巻市） ・日重建設(株)（北上市）

読者プレゼントのご案内

読者の皆様からの感想を募集しております。WEBフォームまたははがき・FAXでお寄せ下さい。抽選で日赤オリジナルグッズ（クリアファイル、メモ用紙、蛍光ペン）を進呈致します。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

WEBフォーム <https://forms.office.com/r/nQKNRQphbK>

はがきまたはFAX 下記必要事項（①～⑧）を明記のうえ、送付ください。
①郵便番号、②住所、③お名前、フリガナ、④年齢、⑤性別、⑥メールアドレス、⑦本誌の感想、⑧今度取り上げて欲しいテーマ

日本赤十字社 岩手県支部

Japanese Red Cross Society

〒020-0831 盛岡市三本柳 6-1-10
TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619 <https://www.jrc.or.jp/chapter/iwate/>

日赤岩手県支部の最新の活動を SNS でチェック!!

赤十字は、動いてる!

あなたと想いをひとつにして。

TEAM SAVE365 一緒なら、救える。

日本赤十字社の活動は、皆様の寄付によって支えられています。

特集 今後の災害に備える。

～令和6年能登半島地震災害から学ぶ～

日本赤十字社 岩手県支部

Japanese Red Cross Society

令和6年能登半島地震で救護活動を展開しました!!

令和6年能登半島地震災害により、北陸地方の各地で甚大な被害が発生しました。日本赤十字社は災害時に必要とされる救護を円滑に行うため、訓練、物資の整備、人材育成など、常に自己完結で災害に対応できる体制を整えています。日赤では、被災各地の被害の状況に合わせ、さまざまな支援活動に尽力するとともに、今後起こりうる災害に備え、活動を続けていきます。

日赤岩手県支部も人員を派遣!

前号(第62号)に引き続き、活動内容をお知らせします。

救護班 岩手県支部から5班を派遣

災害が発生し、医療救護の必要が生じたときは、直ちに被災地で活動するチーム。救護班は原則医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名の6名で編成。被災地では緊急医療や病院支援、避難所巡回診療や衛生環境整備など、被災地の医療機関の機能が回復するまでの空白を埋めるため、さまざまな活動に従事。

救護班第4班(1/30～2/3)

珠洲市で、救護所での診療や避難所の巡回診療を実施。



班長 一戸 克明(医師) 仮設テント救護所を運営

日赤災害医療コーディネーターチーム(COT) 岩手県支部から2班を派遣

発災時に救護班等の派遣調整を行い、現地においても関係機関との連携、避難所や医療機関の情報収集、全国から集う救護班の活動調整、支援物資の管理等、多種多様な業務を担うチーム。

COT第1班(1/24～1/30)

七尾市能登中部保健医療福祉調整本部(能登中部保健福祉センター内)で、DMAT等他団体との連携、救護班の避難所巡回活動調整等を実施。



COT第1班班長 藤原 純(医師) 救護班の巡回避難所の検討

救護班第5班(2/13～2/17)

能登町で、避難者のこころのケアや生活不活発病予防を実施。



班長 峯 貴浩(医師) こころのケアの様子

COT第2班(2/19～2/25)

七尾市能登中部保健医療福祉調整本部(能登中部保健福祉センター内)で、DMAT等他団体との連携、救護班の避難所巡回活動調整等を実施。



COT第2班班長 藤原 隆雄(医師) 救護班への申し送り

こころのケア班 岩手県支部から1班を派遣

災害によりストレスを受けた被災者及び支援者に対する心理社会的支援を行うチーム。

こころのケア班第1班(3/18～3/24)

七尾市で、自らが被災しながら活動している行政職員を対象に、こころのケア(リラクゼーション)を実施。



班長 川原 純子(看護師) 足湯で緊張をほぐす

日本赤十字社岩手県支部 令和6年能登半島地震災害義援金取扱報告 (2024年6月30日集計時点)

受付金額 **3,069万6,303円**
受付件数 **464件**

義援金は被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ全額をお送りし、市町村の自治体を通じて、被災地の方々の生活支援に役立てられます。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。



岩手県薬剤師会の贈呈

日本海溝・千島海溝周辺 海溝型地震に備える

岩手県では、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による大きな被害が予測されています。想定を超える被害、突然のトラブル、精神的ダメージ…。その状況下で自分や大切な人を守るのは“正しい知識”です。あなたの未来を救うかもしれない知識を紹介します。

携帯トイレの備え

能登半島地震では、断水が続き、長期間にわたって水洗トイレが使用できない状況が発生しました。災害時には停電や断水、給排水管や污水处理施設の被害などにより、水洗トイレの利用が困難になることがあります。過去の災害では、トイレの使用頻度を抑えるために水分や食事の摂取を制限することで、脱水症状やエコノミークラス症候群などの健康問題が発生し、それが死亡につながるケースもありました。災害時のトイレ問題に対処するためには、携帯トイレの備蓄が非常に重要です。

代表的な災害時のトイレ

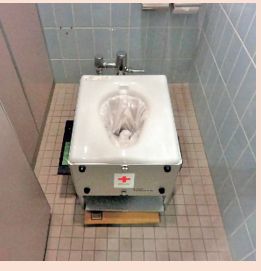
▼ 携帯トイレ

洋式トイレが水を流せなくなった場合、袋を取り付けて使用します。袋の中には吸水シートや凝固剤が入っており、消臭剤や臭い漏れ防止のための袋などがセットされているものもあります。



▼ 簡易トイレ

尿や便を収集するタイプや電力を利用して密閉するタイプなど、様々な種類の災害用トイレがあります。岩手県支部では、ビニールで尿や便を密閉するラップ式簡易トイレ(右の写真)を備えています。



携帯トイレの必要数

- 〇〇家の場合
家族 3人
トイレ 6回/1日
復旧まで 7日

3人×6回×7日
= **126個** 必要



災害時に備えて、必要な数を準備し、使い方を事前に練習しておきましょう。

赤十字防災セミナーがリニューアル!!

日本赤十字社では過去の災害から得た教訓や救護の実経験を踏まえ、地域住民が自ら災害から命を守り、罹災に伴う心身の苦痛を軽減することを目的に、地域の防災力(「自助」「共助)」を向上させるための防災セミナーを学校、企業、地域等で様々な方を対象に実施しています。今年度から赤十字防災セミナーに新たに「家具安全対策ゲーム(KAG)」、「ひなんじょ たいけん(HUG)」が加わりました。これらにより、より幅広い年齢層の方々が柔軟に赤十字防災セミナーを受講いただけます!! みなさんのお申し込みをお待ちしています。



ひなんじょ たいけん (90分) 避難所の運営をゲームで体験
家具安全対策ゲーム (30～45分) おうちのキケンを発見
能登半島地震等でも実際に使われた避難所テント等の展開 (60分～)

日常生活でのいのちと健康を守る

日本赤十字社では「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を果たすため、身近なケガに対する手当や日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識や技術の普及と啓発を行っています。日赤岩手県支部では救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援講習の4種類の講習を毎年実施しています。詳しい内容等はホームページをご確認ください。みなさんのお申し込みをお待ちしています。

今後の研修予定

講習種別	コース名	開催日程	時間	会場
救急法	基礎講習	9月5日(木)	8:30～13:00	日本赤十字社 岩手県支部
	救急員養成講習	9月6日(金)～7日(土)	9:00～17:00 9:00～16:00	
水上安全法	救助員Ⅱ養成講習	8月23日(金)～25日(日)	10:00～17:00 10:00～15:00 (最終日)	大槌町 吉里吉里海岸 海水浴場
幼児安全法	支援員養成講習	9月14日(土)～15日(日)	9:00～17:00	日本赤十字社 岩手県支部
健康生活支援講習	支援員養成講習	10月18日(金)～19日(土)	9:00～17:00	日本赤十字社 岩手県支部



受講者
大募集

防災セミナーや講習は、学校や職場、地域の集会等で時間に合わせて開催できますので、是非ご相談ください。また、今年度は、救急法と健康生活支援講習の指導員養成講習を実施予定です。